

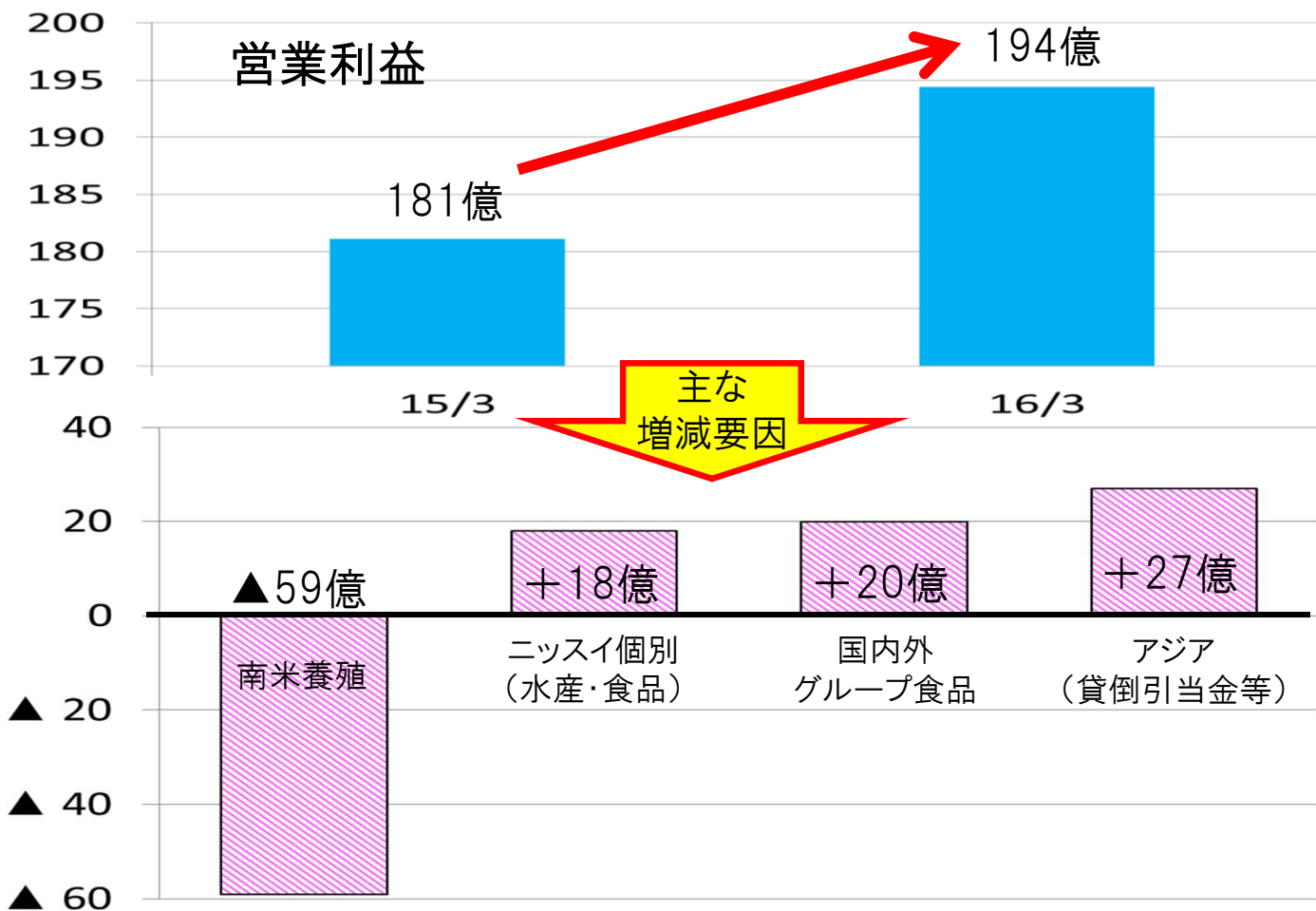


2016年3月期 決算短信補足資料

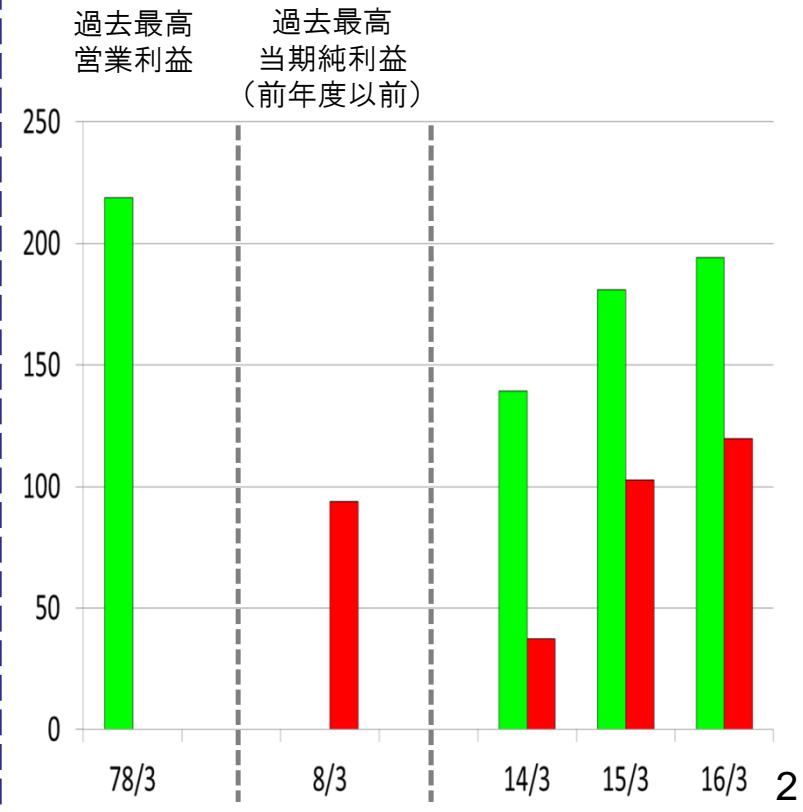
2016年5月13日
日本水産株式会社

◆南米の鮭鱒養殖事業の魚価低迷とコストアップ等による前年比大幅収益悪化(▲59億円)を、堅調な個別の水産・食品(+18億円)と国内外の食品事業(+20億円)に加え、前年のアジアにおける貸倒引当金が無くなったことによるプラス要素等(+27億円)によりカバー。
 営業利益は前年比7%の増益となり、当期純利益は2期連続で過去最高を更新。

(単位:億円)



(単位:億円) ■ 営業利益 ■ 当期純利益



◆水産事業の減収・減益を食品事業がカバー

(単位:億円)	2016年3月期 実績	2015年3月期 実績	対前年比増減		2016年3月期 ※公表値	対公表値増減	
			(億円)	(%)		(億円)	(%)
売上高	6,371	6,384	▲12	99.8%	6,400	▲28	99.6%
水産事業	2,696	2,848	▲152	94.6%	2,712	▲15	99.4%
食品事業	3,054	2,969	84	102.9%	3,078	▲23	99.2%
ファインケミカル事業	256	253	3	101.4%	261	▲4	98.4%
物流事業	151	142	9	106.8%	160	▲8	94.9%
その他	212	170	41	124.5%	189	23	112.3%
営業利益	194	181	13	107.4%	180	14	108.0%
水産事業	40	62	▲22	64.2%	33	7	122.5%
食品事業	106	75	30	140.1%	99	7	107.4%
ファインケミカル事業	46	45	0	101.7%	45	1	103.0%
物流事業	18	16	1	110.9%	19	▲0	97.6%
その他	6	8	▲2	73.0%	9	▲2	69.1%
全社経費	▲23	▲28	5	82.1%	▲25	1	93.9%
経常利益	206	213	▲6	96.7%	200	6	103.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	119	102	17	116.6%	115	4	104.2%
EPS(1株当たり純利益)	43.38円	37.20円	-	-	41.63円	-	-

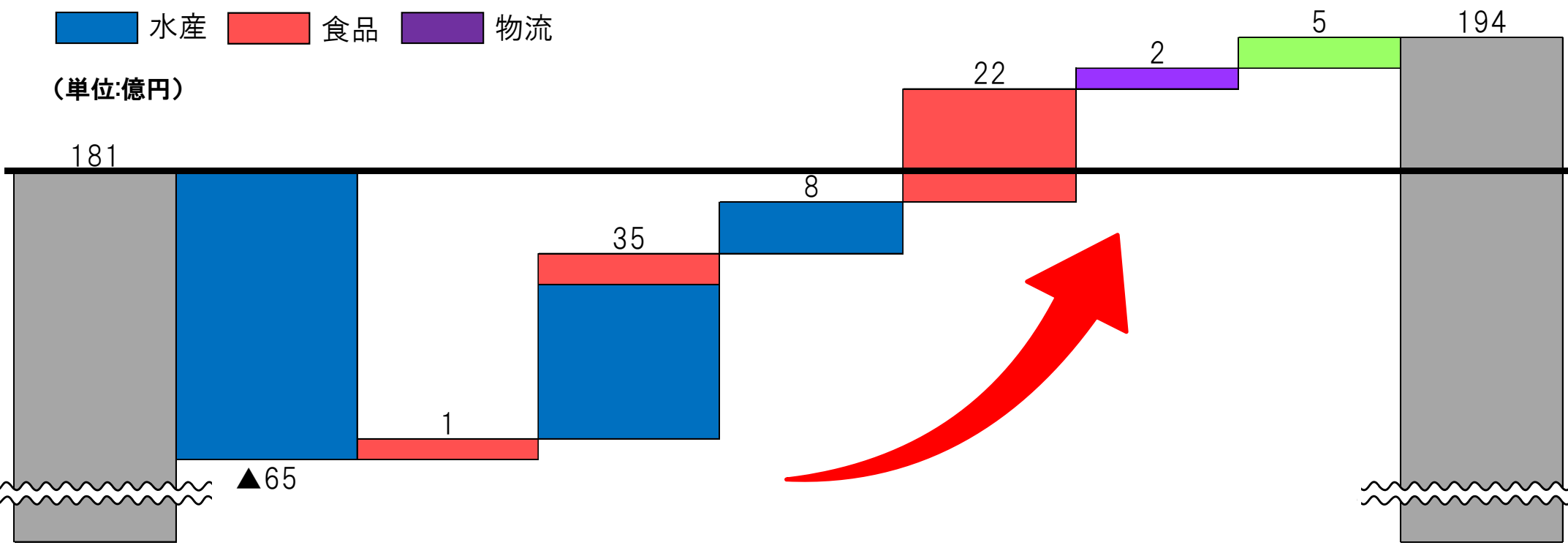
※2016年3月期公表値のセグメント別計画は、第3四半期決算発表時に修正した計画値

主な営業利益増減要因

◆ 営業利益は前年比増益(+13億円)。南米は鮭鱒の販売価格下落などにより大幅な減益となったが、アジア・ニッスイ個別を含む国内の水産・食品を中心にカバー

■ 水産 ■ 食品 ■ 物流

(単位:億円)



(主な増減要因)

2015年3月期	海外			国内			全社経費	2016年3月期
	<南米>	<北米>	<アジア>	<水産>	<食品>	<物流>		
	養殖鮭鱒のコスト増と販売価格下落に加え、南だらの漁獲低調等	原料価格低下による業務用冷凍食品事業が好調	主に前年の貸倒引当金計上がなくなったことによる収益改善	魚粉等の販売価格が堅調	ニッスイ個別は家庭用・業務用冷凍食品が好調、チルド事業も順調	保管料収入の増加等		

◆エリア別では日本、事業別では食品が大きく増収

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,157 (17)	555 (49)	226 (▲101)	84 (▲76)	488 (▲60)	3,511 (▲172)	▲815 (19)	2,696 (▲152)
	2,140	506	328	160	548	3,684	▲835	2,848
食品事業	3,203 (117)	654 (10)		67 (▲3)	222 (15)	4,148 (139)	▲1,093 (▲54)	3,054 (84)
	3,086	644		70	207	4,008	▲1,038	2,969
ファイン事業	275 (4)			2 (▲0)		278 (4)	▲21 (▲1)	256 (3)
	271			3		274	▲20	253
物流事業	272 (37)					272 (37)	▲120 (▲28)	151 (9)
	234					234	▲92	142
その他事業	329 (106)			1 (0)		331 (106)	▲119 (▲64)	212 (41)
	223			1		225	▲54	170
仮計	6,239 (283)	1,209 (59)	226 (▲101)	156 (▲79)	710 (▲45)	8,542 (116)		
	5,955	1,150	328	236	755	8,426		
連結調整	▲1,651 (▲173)	▲239 (▲21)	▲165 (52)	▲104 (14)	▲10 (▲0)		▲2,171 (▲128)	
	▲1,477	▲217	▲217	▲118	▲9		▲2,042	
連結計	4,587 (110)	969 (37)	61 (▲48)	51 (▲65)	700 (▲45)			6,371 (▲12)
	4,477	932	110	117	746			6,384

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲35億円 (PESANTAR)

※新規連結会社の影響額 +39億円 (東京水産運輸、CAP OCEAN、稚内東部)

※為替換算による売上高への影響額(試算) ▲95億円

◆南米の減益が大きいが、食品事業を中心に他のエリア・事業でカバー

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	
水産事業	45 (8)	6 (▲1)	▲23 (▲65)	1 (29)	9 (▲2)		39 (▲30)	0 (7)	40 (▲22)	
	36	7	41	▲27	11		69	▲6	62	
食品事業	56 (22)	24 (1)	▲23 (▲65)	7 (6)	19 (1)		108 (31)	▲1 (▲1)	106 (30)	
	34	22		1	17		76	▲0	75	
ファイン事業	45 (0)				0 (0)			46 (0)	0 (▲0)	46 (0)
	44				0			45	0	45
物流事業	18 (2)							18 (2)	▲0 (▲0)	18 (1)
	16							16	0	16
その他事業	11 (1)				▲0 (▲0)			11 (1)	▲5 (▲3)	6 (▲2)
	10				0			10	▲1	8
全社経費							▲24 (5)	▲24 (5)	0 (▲0)	▲23 (5)
							▲29	▲29	1	▲28
仮計	177 (35)	30 (0)	▲23 (▲65)	10 (35)	29 (▲0)	▲24 (5)	199 (11)			
	141	29	41	▲25	29	▲29	188			
連結調整	▲4 (▲5)	▲0 (1)	3 (2)	▲0 (▲0)	▲2 (3)	0 (0)		▲5 (1)		
	0	▲1	1	▲0	▲6	▲0		▲7		
連結計	173 (30)	29 (2)	▲20 (▲63)	9 (34)	26 (2)	▲24 (5)			194 (13)	
	142	27	43	▲25	23	▲30			181	

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲5億円 (PESANTAR 他)

連結損益計算書(前年比)

(単位:億円)

	2016年3月期 実績	売上高比 (%)	2015年3月期 実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	6,371		6,384		▲12	▲ 0.2
売上総利益	1,327	20.8	1,327	20.8	0	0.0
販売費・一般管理費	1,133		1,146		▲12	
営業利益	194	3.1	181	2.8	13	7.4
営業外収益	58		74		▲16	
営業外費用	45		41		3	
経常利益	206	3.2	213	3.4	▲6	▲ 3.3
特別利益	16		31		▲15	
特別損失	13		33		▲19	
税金等調整前当期純利益	209	3.3	211	3.3	▲2	▲ 1.1
法人税等	63		47		16	
法人税等調整額	12		48		▲35	
当期純利益	133		116		16	
非支配株主に帰属する当期純利益	13		13		▲0	
親会社株主に帰属する当期純利益	119	1.9	102	1.6	17	16.6

主な増減要因

【営業外収益・費用】

投資有価証券売却益 約4億円減少
 持分法による
 投資利益 約3億円減少
 支払利息 約3億円減少 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益 約14億円
- 減損損失 約 8億円
- 固定資産処分損 約 4億円

2015年3月期(前期)

- 関係会社株式売却益 約26億円
- 関係会社株式売却損 約13億円
- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失
約7億円

連結貸借対照表(前期末比)

流動資産 2,174 (▲142)	流動負債 2,123 (+0)
	固定負債 1,229 (▲197)
固定資産 2,266 (▲9)	純資産 1,088 (+45)
総資産 4,441 (▲151)	うち自己資本 897 (+44)

()内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

主な増減要因

資産 ▲151	流動資産 ▲142	受取手形及び売掛金 棚卸資産 現金及び預金 その他	▲26 ▲22 ▲18 ▲71
	固定資産 ▲9	有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産	+44 ▲14 ▲39
負債 ▲197	流動負債 +0	短期借入金 未払法人税等 その他	▲23 +9 +6
	固定負債 ▲197	長期借入金	▲192
	純資産 +45	利益剰余金 その他有価証券評価差額金 繰延ヘッジ損益 為替換算調整勘定	+114 ▲27 ▲10 ▲32

自己資本比率 '15/3 18.6% → '16/3 20.2%

連結キャッシュフロー(前年比)



◆たな卸資産圧縮等により営業CFが大幅に増加。
 ⇒大阪における物流センター建設など、大型投資はあったものの、
 フリーキャッシュフロー捻出により、借入金を大幅削減

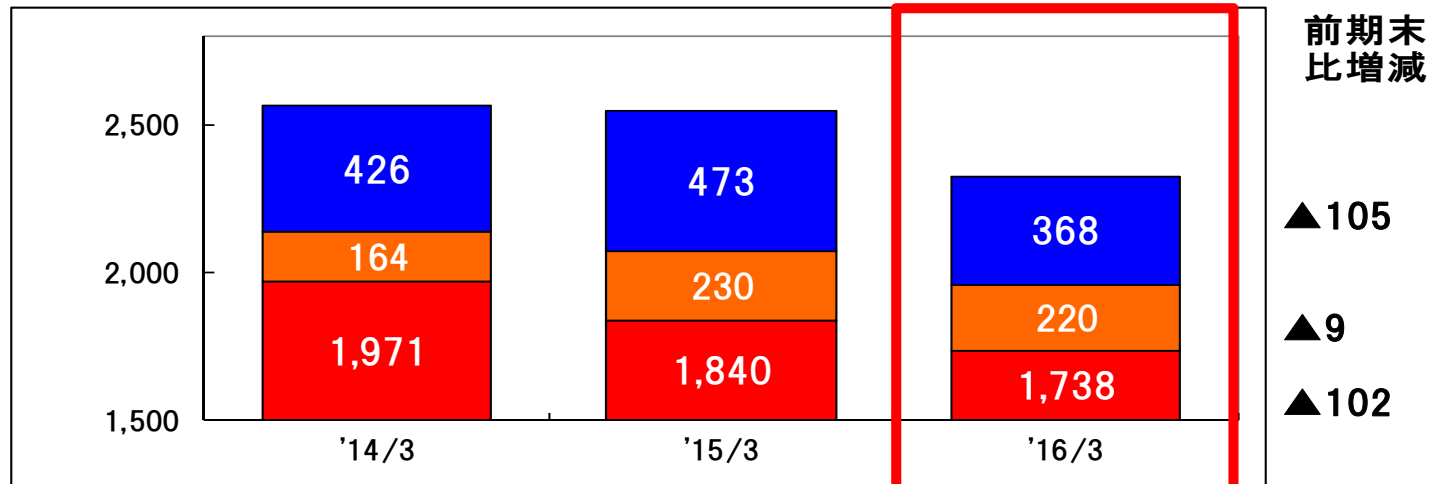
(単位: 億円)

	2016年3月期 実績	2015年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	209	211	▲ 2
・減価償却費 (のれん償却含む)	172	172	▲ 0
・運転資本	45	▲ 64	110
・法人税等の支払額	▲ 53	▲ 53	0
・その他	0	▲ 37	38
営業活動によるCF	373	228	145
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 202	▲ 168	▲ 33
・その他	32	47	▲ 15
投資活動によるCF	▲ 170	▲ 121	▲ 49
・短期借入金の増減額	▲ 75	18	▲ 93
・長期借入金の増減額	▲ 135	▲ 87	▲ 47
・その他	▲ 21	▲ 9	▲ 11
財務活動によるCF	▲ 231	▲ 78	▲ 152

◆借入金は前期末比で減少

(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッサイ個別



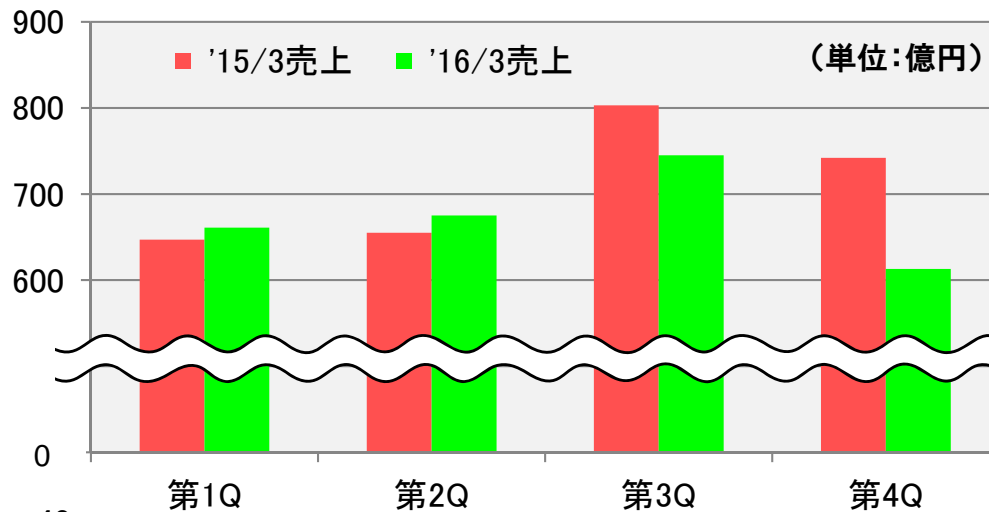
借入金合計	2,561	2,543	2,326	▲216
短期借入金	1,278	1,399	1,375	▲23
長期借入金	1,282	1,143	951	▲192
短期借入金平均利率	0.7%	0.6%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.3%	1.3%	▲0.0%
純金利負担	16.9	16.2	13.8	
対営業利益純金利負担率	12%	9%	7%	
支払利息	32.7	30.3	26.5	
受取利息	4.7	3.9	3.3	
受取配当金	11.0	10.1	9.3	
為替レート(US\$1)	@105.39(12月末)	@120.55(12月末)	@120.61(12月末)	

◆南米鮭鱒養殖事業の不振を、アジアの対前年好転要素や国内事業他で埋めきれなかった

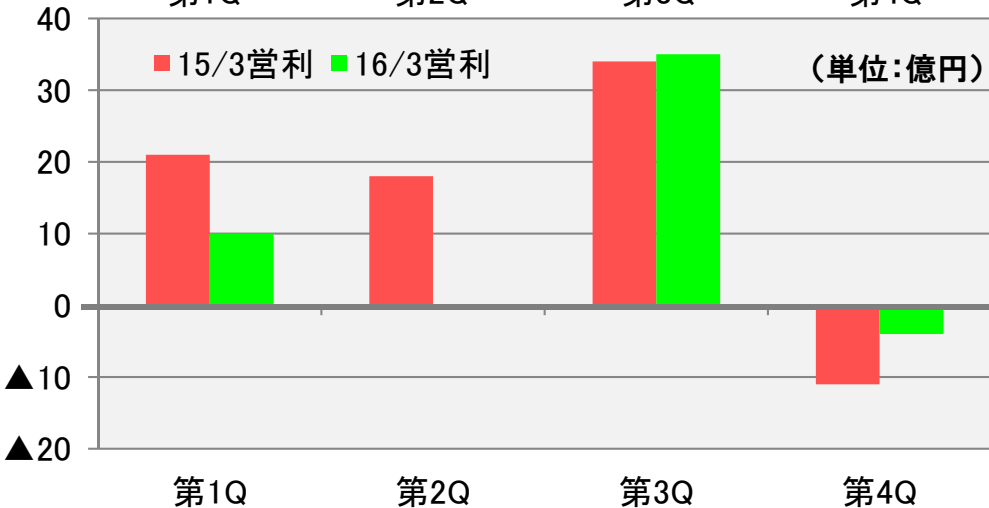
	2016年3月期 実績	2015年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	2,696	2,848	▲152	94.6%
営業利益	40	62	▲22	64.2%

2016年3月期 公表値	対公表値増減	
	(億円)	(%)
2,712	▲15	99.4%
33	7	122.5%

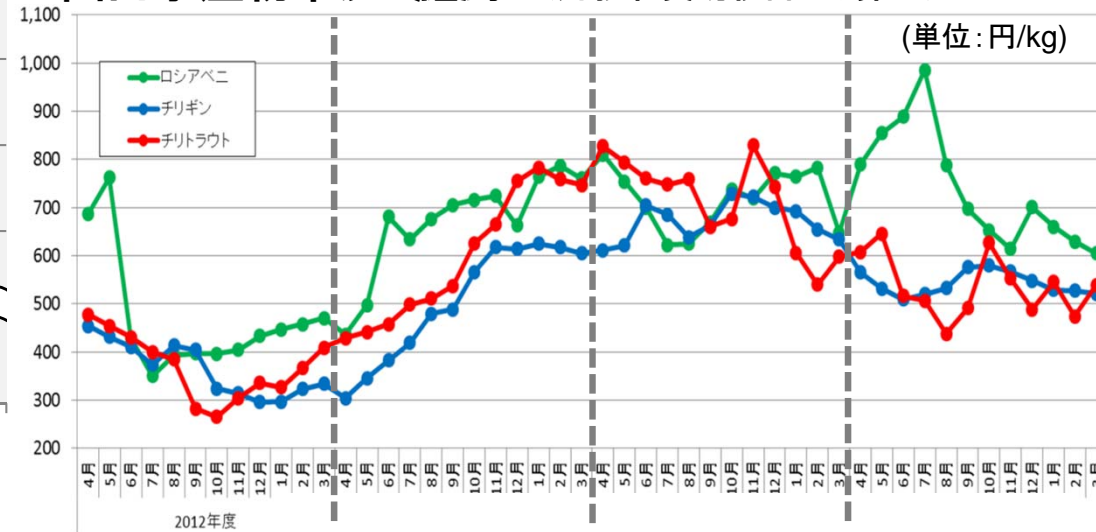
売上高



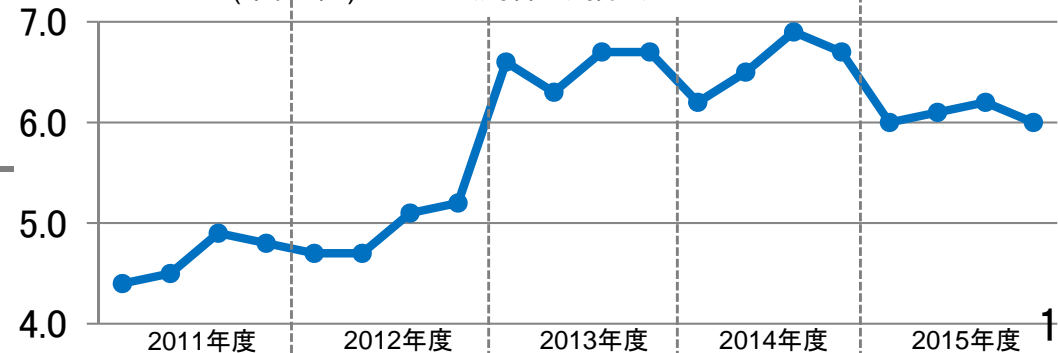
営業利益



<国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)>



ニッスイ個別の水産在庫回転数 (単位: 回) (飼料油飼除く)



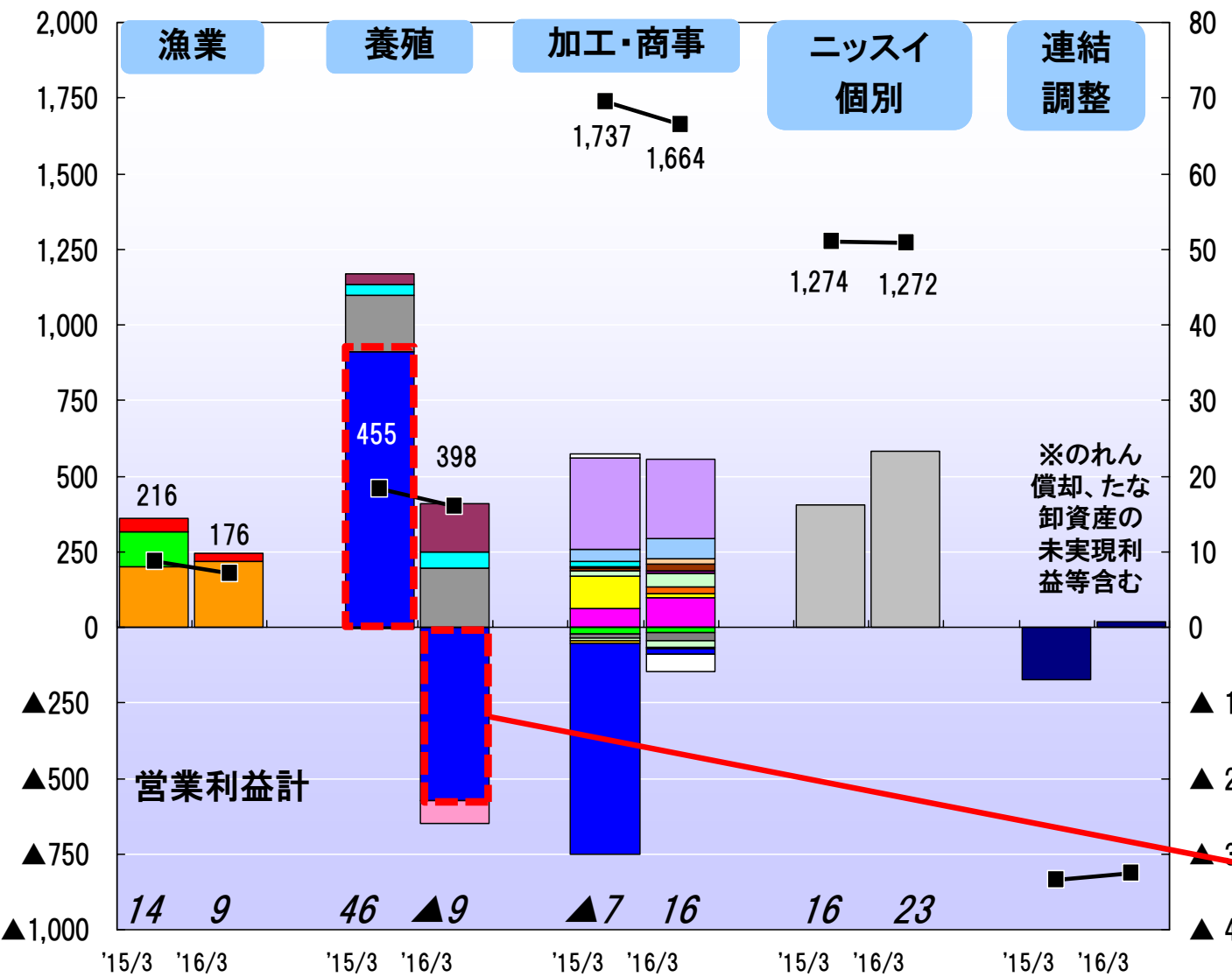
水産事業 売上高・営業利益(前年比)



売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益(棒グラフ)

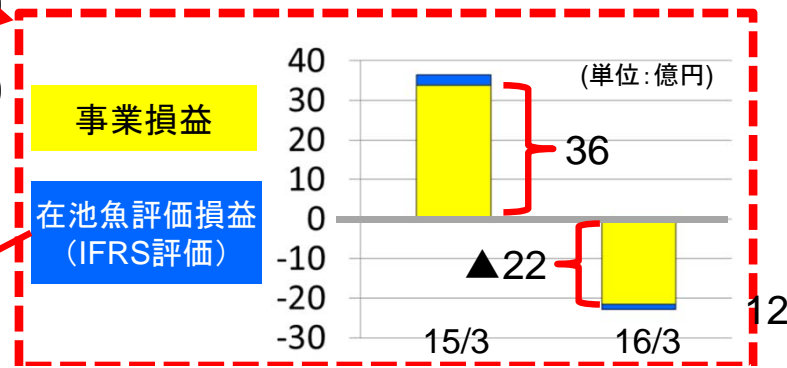


主な増減要因

- 【漁業】**
 - ・南米:ほき、南だらの漁獲低調で販売数量減少
 - ・アルゼンチン事業から撤退完了
- 【養殖】**
 - ・国内養殖事業
 - ぶり: 販売価格が弱含みで推移したことに加え、飼料高騰により生産コストも上昇したが、販売数量が大幅増加
 - まぐろ: 販売価格は堅調に推移したが、販売数量が減少
 - ・チリの鮭鱒養殖事業
 - 飼料高騰による生産コストの上昇や魚病の影響に加え、販売価格が大きく下落
- 【加工・商事】**
 - ・アメリカのすけそうだら事業
 - すりみの増産に加え、販売価格も上昇したが、フィレの販売数量と助子の生産量が減少
 - ・欧州: 販売は前期並みに推移したが、為替の影響により売上・利益ともに減少
 - ・前年はアジア商事部門で中国向け売掛債権に対し貸倒引当金を計上

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

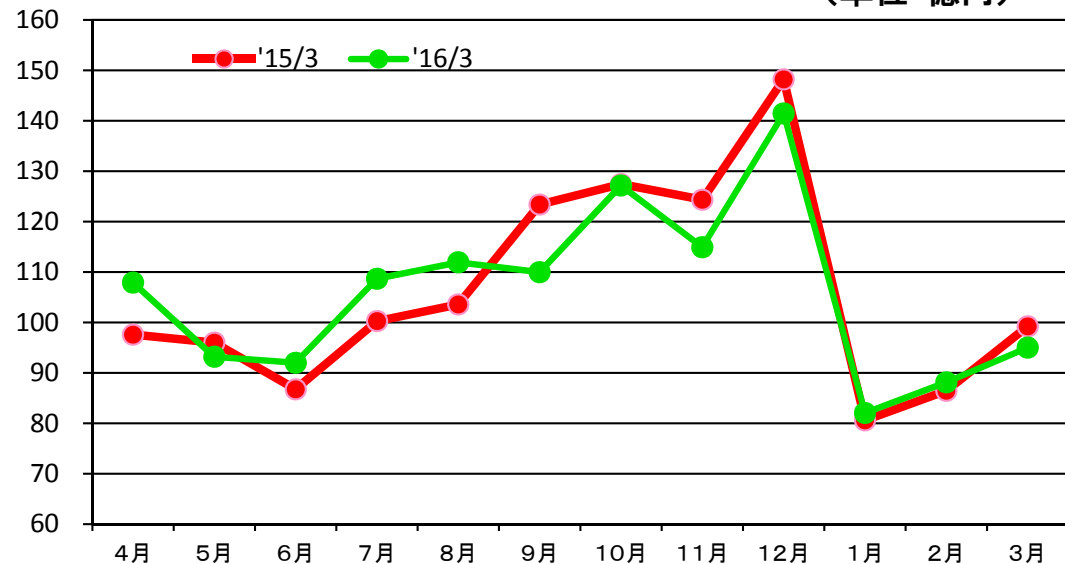
南米の鮭鱒養殖事業では、国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、水産事業セグメントの営業損益に計上しております。



◆魚粉の価格アップやぶりの数量増とともに、適正な在庫コントロールにより増益確保

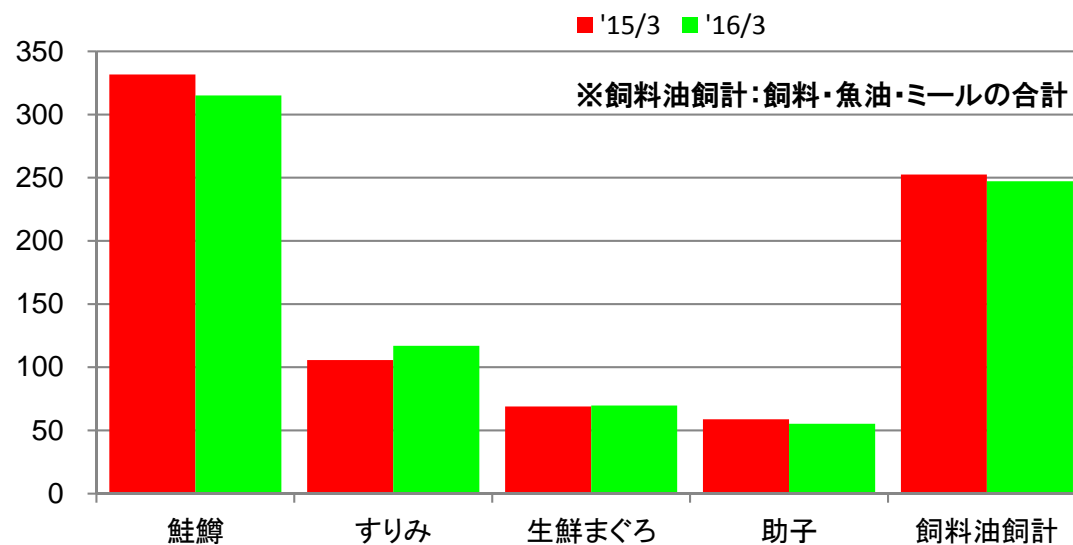
<売上高(月別)>

(単位:億円)



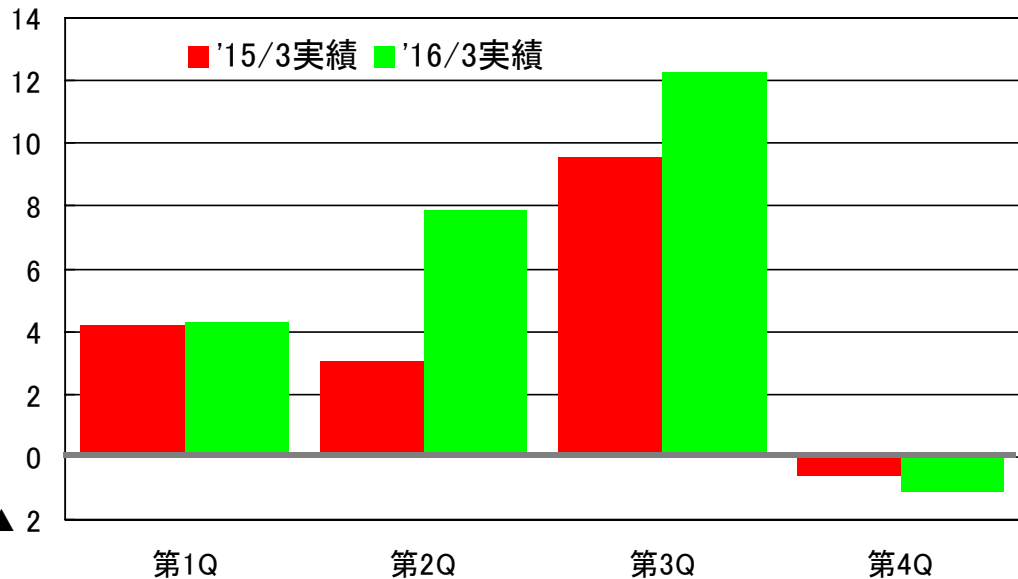
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



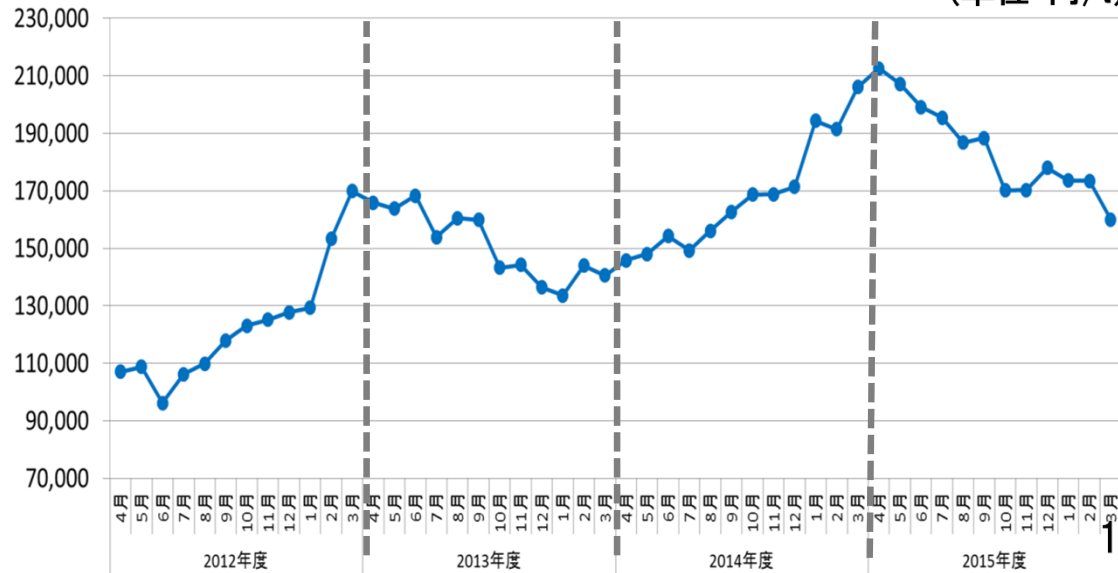
<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>

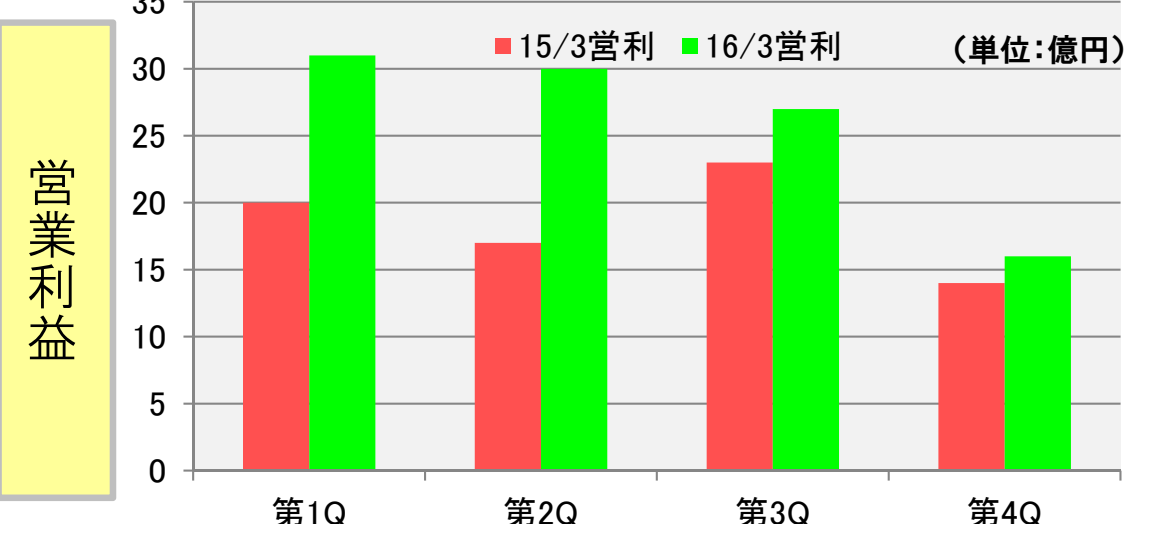
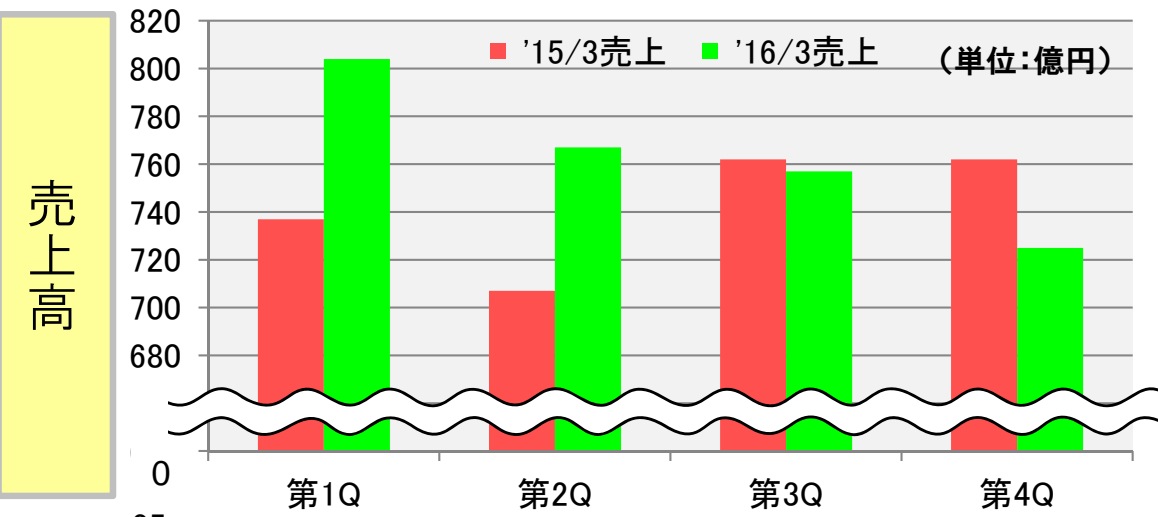
(単位:円/t)



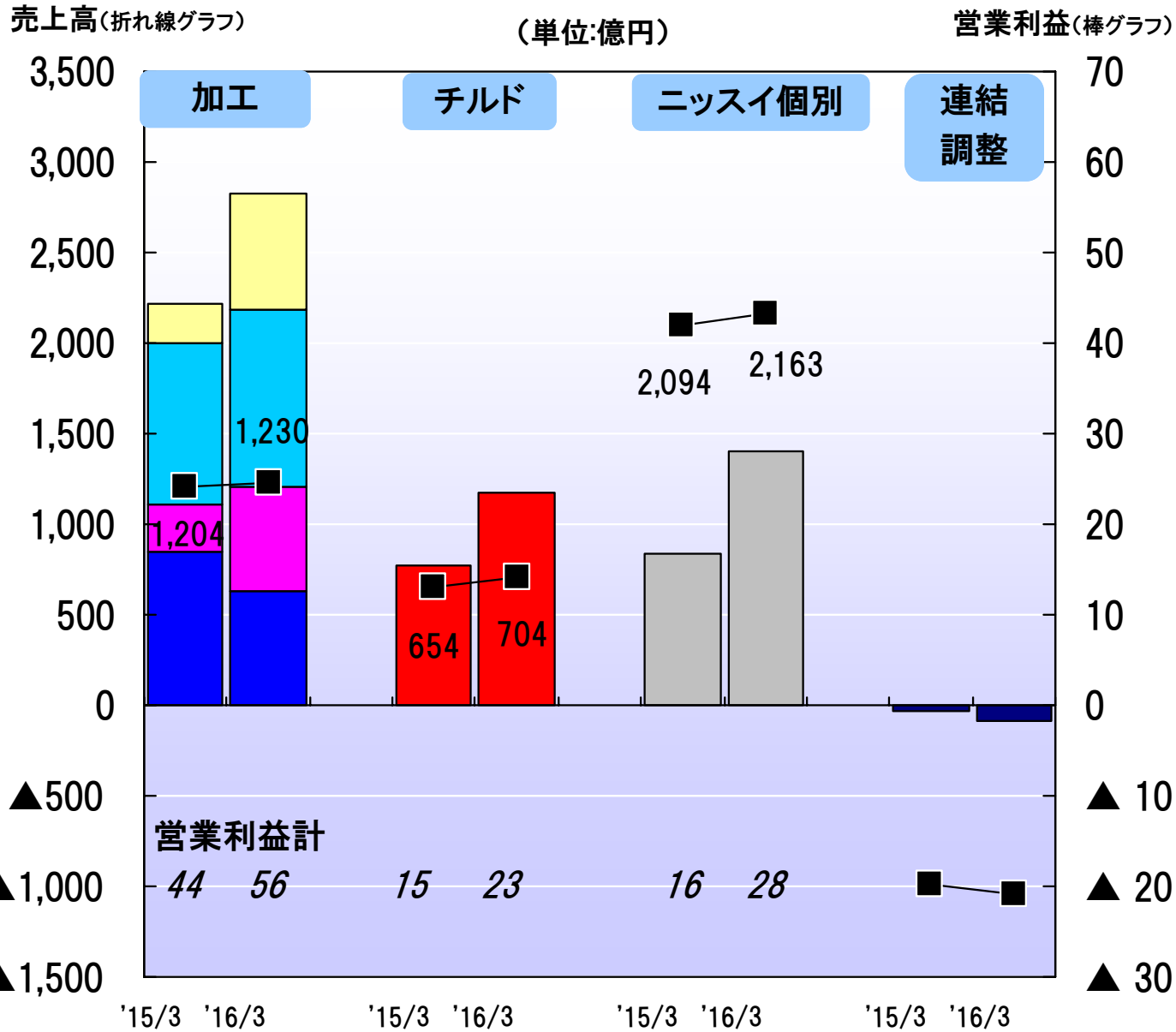
◆ほぼ全てのエリアで増収増益となった

	2016年3月期 実績	2015年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	3,054	2,969	84	102.9%
営業利益	106	75	30	140.1%

2016年3月期 公表値	対公表値増減	
	(億円)	(%)
3,078	▲23	99.2%
99	7	107.4%



食品事業 売上高・営業利益(前年比)



主な増減要因

【加工】

- ・北米
家庭用冷凍食品会社:工場集約などの効果は見られたが、主力商品の伸びが足りず減益
業務用冷凍食品会社:原料のえびの価格が下がったことに加え、大手レストランチェーン向けの販売が好調
- ・ヨーロッパ
新たに生産ラインを増強するとともに、水産チルド品を中心に販売数量が増加
- ・日本
価格改定やコストダウンなどにより、冷凍食品や練製品の販売が好調に推移

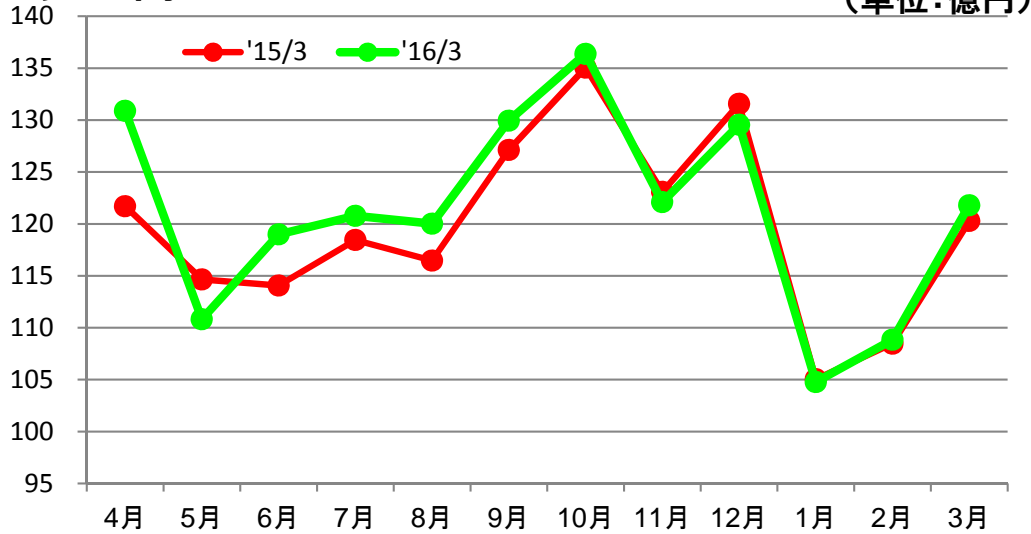
【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上など

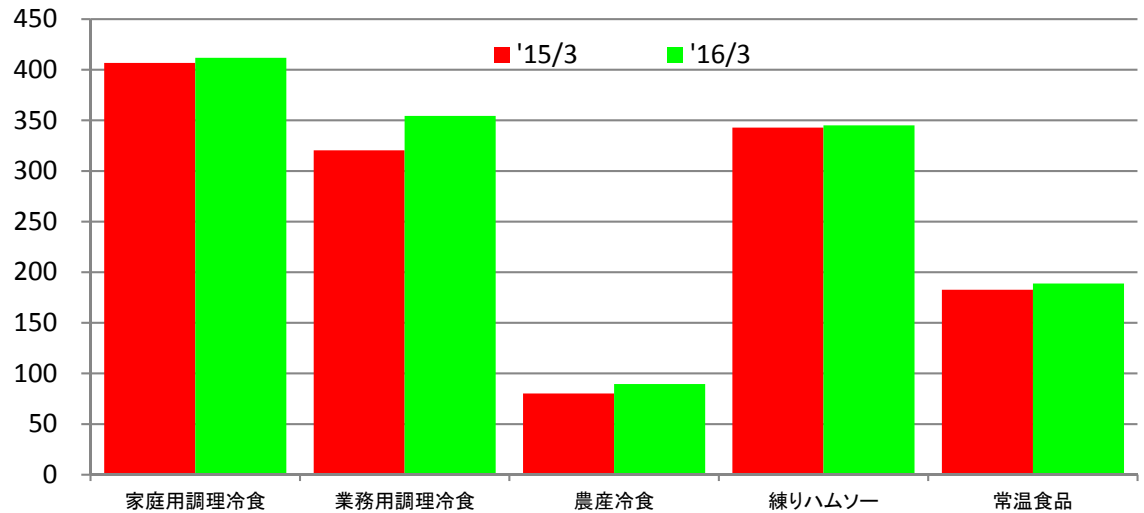
※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

◆円安に加え、すりみの原料コスト高の影響を価格改定やコスト削減努力によりカバー

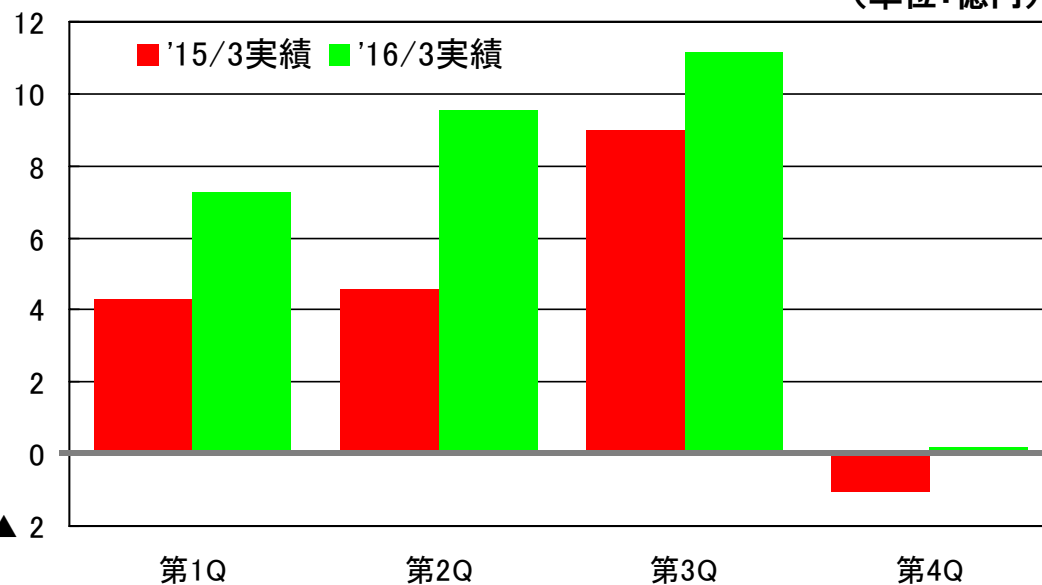
<売上高(月別)>



<カテゴリー別 売上高(前年同期比)>



<営業利益(四半期別)>



<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



◆後発品使用促進策等の影響により、前年からの伸長なし

	2016年3月期 実績	2015年3月期 実績	対前年比増減		2016年3月期 公表値	対公表値増減	
			(億円)	(%)		(億円)	(%)
売上高	256	253	3	101.4%	261	▲4	98.4%
営業利益	46	45	0	101.7%	45	1	103.0%

主な増減要因

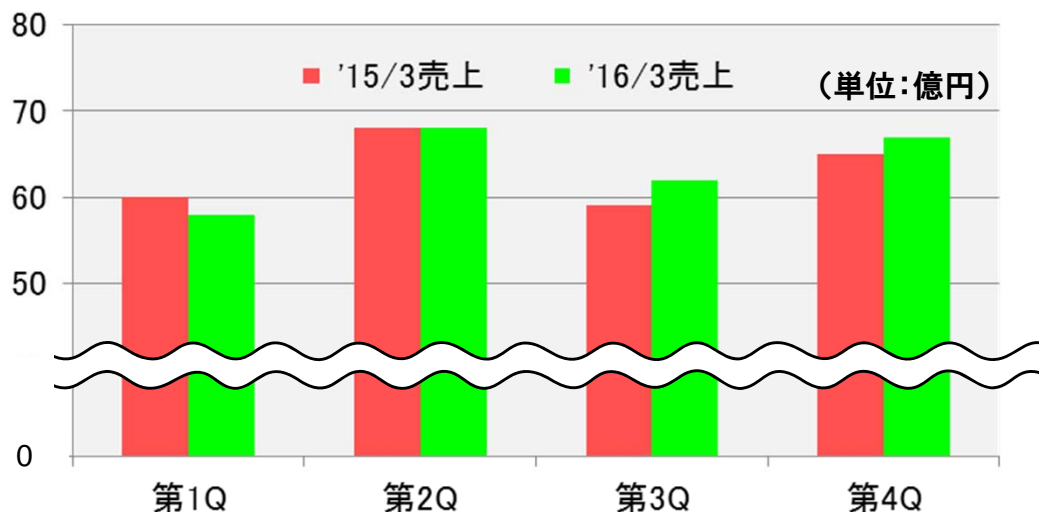
【ニッセイ個別】

- ・医薬原料
後発品使用促進策などによる販売数量の減少

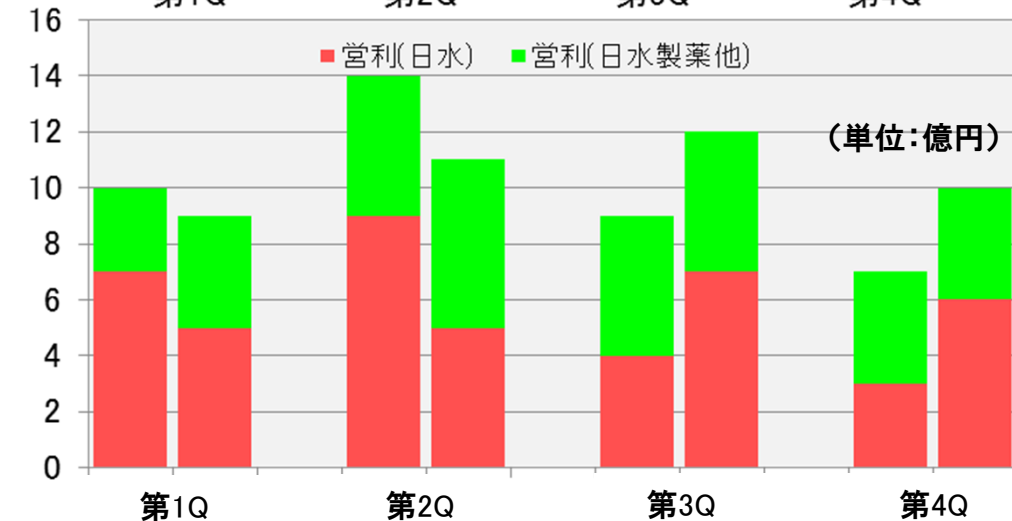
【グループ】

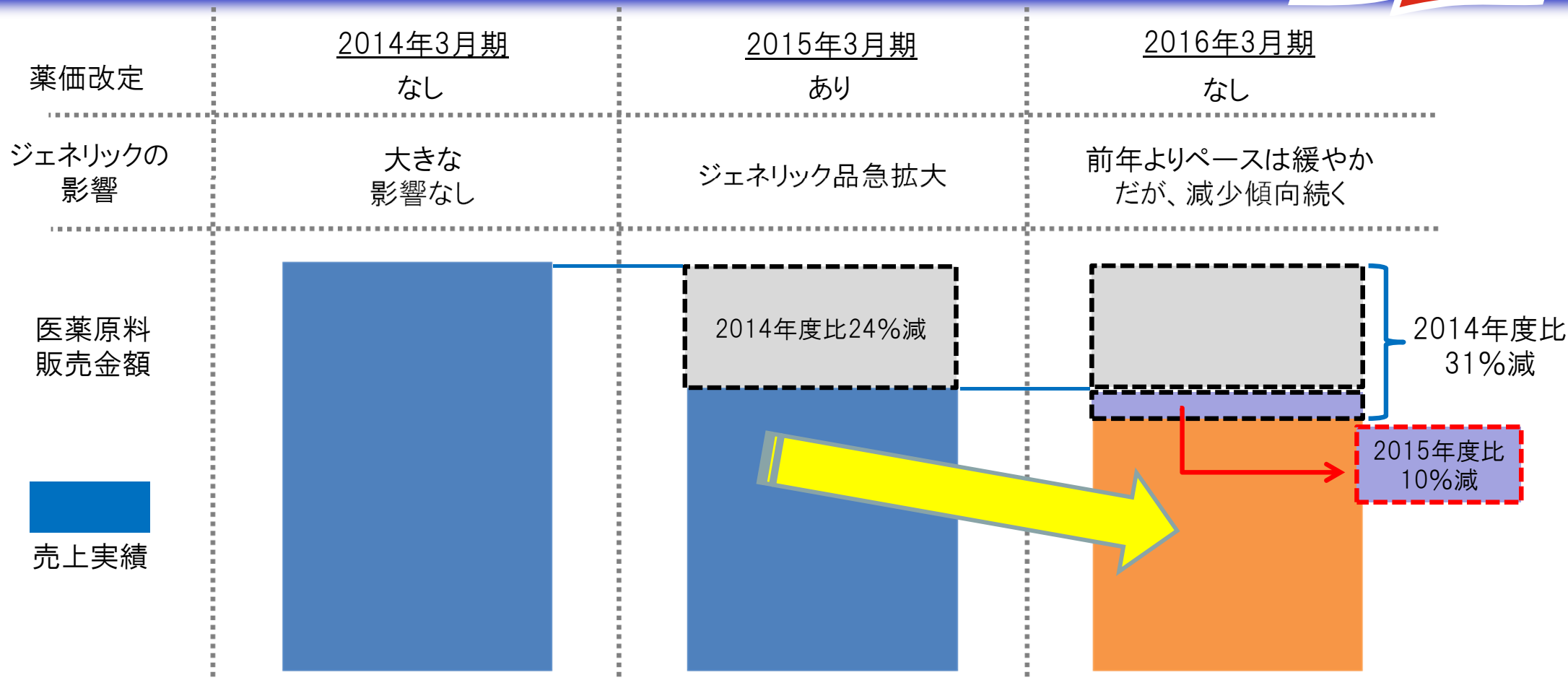
- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売堅調

売上高



営業利益

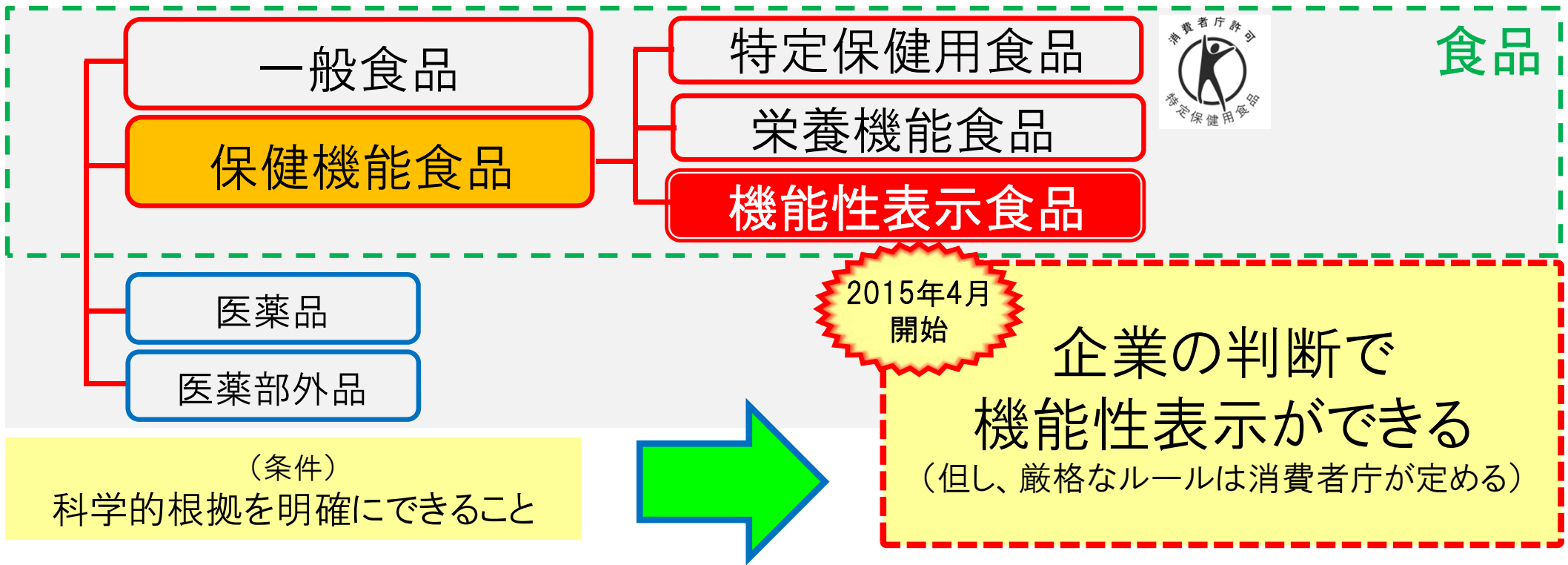




< 医薬原料: 前年比 ▲約2億円減益 >
 前年度以降のジェネリック品の伸長からシェア回復に苦戦
 < 機能性原料: 利益はほぼ前年並み >
 EPA・DHAの原料販売増加(機能性表示食品等)
 売上高は対前期比で約109%

< 機能性食品: 前年比 約1億円増益 >
 休眠顧客呼び戻し(DM)実施、広告宣伝媒体の見直し
 < 研究開発費: 前年比 約2億円増加 >
 将来の成長に向けた研究開発費の投入

政府は医療費削減を目的とし、機能性食品市場の拡大のため、機能性表示の緩和を実施



2016年3月に消費者庁より、当社機能性表示食品7品目が受理される



<既存の鹿島工場>

- ①EPA医薬原料
- ②食品向け素材として機能性脂質(EPA・DHA)
- ③化粧品素材としてオレンジラフィー油等幅広く生産

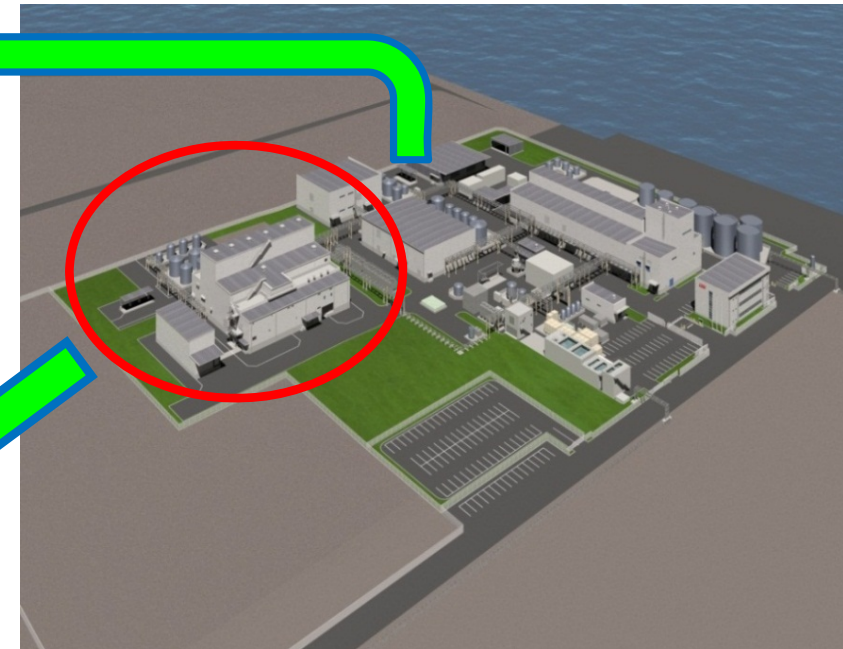
<新設の鹿島医薬品工場>

2016年1月着工
設備投資額:80億円

稼働予定:2018年

医薬原料としてのEPA生産に特化
⇒医薬品原料生産能力倍増:約420トン/年間

- ・海外輸出を視野に入れた、cGMP基準対応
- ・魚油からの高いEPA回収率を実現し、低EPA含有濃度の原料からの高純度EPAの製造が可能



※丸囲みが「医薬品工場」、そのほかは既存工場

世界一のEPA原体メーカー
を目指し、ファイン
ケミカル事業の体質強化

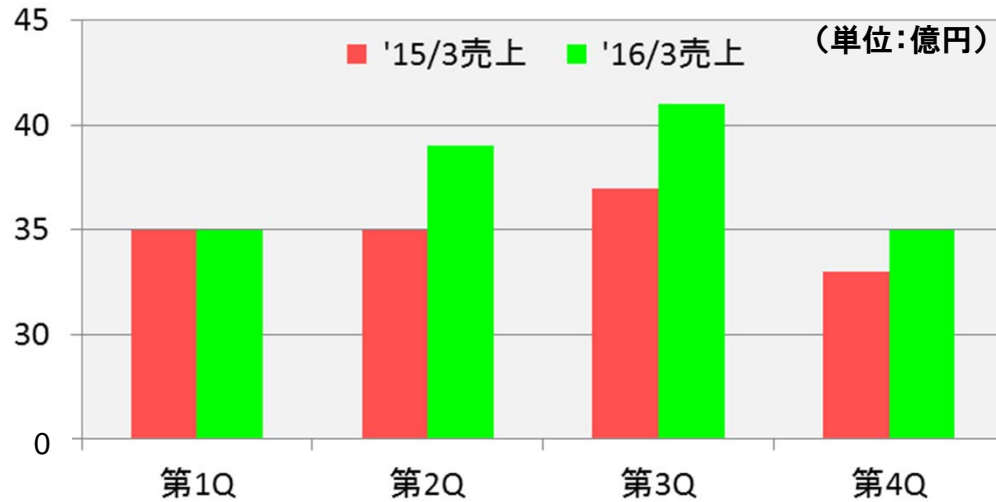
◆前年比で増収増益で推移

	2016年3月期 実績	2015年3月期 実績	対前年比増減		2016年3月期 公表値	対公表値増減	
			(億円)	(%)		(億円)	(%)
売上高	151	142	9	106.8%	160	▲8	94.9%
営業利益	18	16	1	110.9%	19	▲0	97.6%

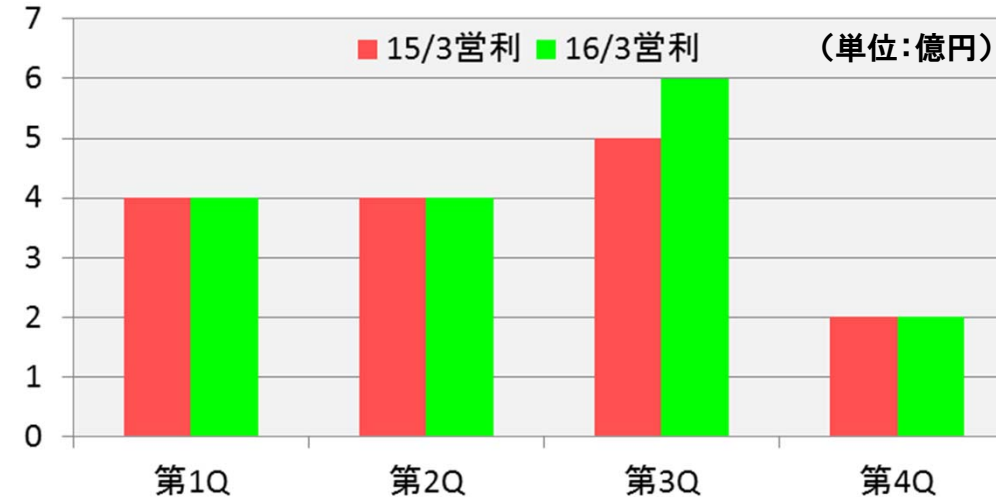
主な増減要因

- ・冷蔵庫事業：入出庫に関わる収入が減少したが、保管料収入が増加

売上高



営業利益



日水物流・大阪舞洲物流センター(設備能力:約25,400トン)
2016年3月竣工、同4月より営業開始

(参考)個別損益計算書(前年比)



(単位:億円)

	2016年3月期 実績	売上高比 (%)	2015年3月期 実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	3,576		3,506		69	2.0
売上総利益	681	19.0	661	18.9	19	3.0
販売費・一般管理費	629		632		▲3	
営業利益	51	1.5	28	0.8	23	82.4
営業外収益	60		78		▲18	
営業外費用	26		48		▲21	
経常利益	85	2.4	58	1.7	27	46.4
特別利益	14		15		▲1	
特別損失	8		6		1	
税引前当期純利益	91	2.6	67	1.9	24	36.2
法人税等	11		1		9	
法人税等調整額	9		24		▲14	
当期純利益	71	2.0	41	1.2	29	71.3

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加	約3億円
管理費減少	約2億円
広告宣伝費減少	約4億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)	
- 投資有価証券売却益	約14億円
- 減損損失	約6億円

◆売上高・当期利益はほぼ前年並みを予想するが、営業利益は減少

(単位:億円)

	2017年3月期 計画	2016年3月期 実績	増減
売上高	6,370	6,371	▲1
営業利益	180	194	▲14
経常利益	200	206	▲6
親会社株主に 帰属する 当期純利益	120	119	0

主要在外会社の 為替換算レート	2017年3月期 計画	2016年3月期 実績
米ドル	120.00円	120.61円
ユーロ	132.00円	131.77円
デンマーククローネ	18.00円	17.67円

(水産事業)

- ・北米:すけそうだらフィレ市況の低迷や助子の生産数量減により苦戦
- ・南米:鮭鱒養殖事業は魚価の回復などによる前年比好転を見込む
- ・ニッスイ個別:在庫マネジメント強化、惣菜化を推進し増益

(食品事業)

- ・海外:原料価格アップなどにより全エリアで苦戦
- ・ニッスイ個別:主要カテゴリーの強化と機能性表示食品の投入による成長を見込む

(ファインケミカル事業)

- ・後発品促進策の影響は残るも、機能性表示食品制度を活用した新商品の導入による市場開拓

来期の業績予想(セグメント別概況)



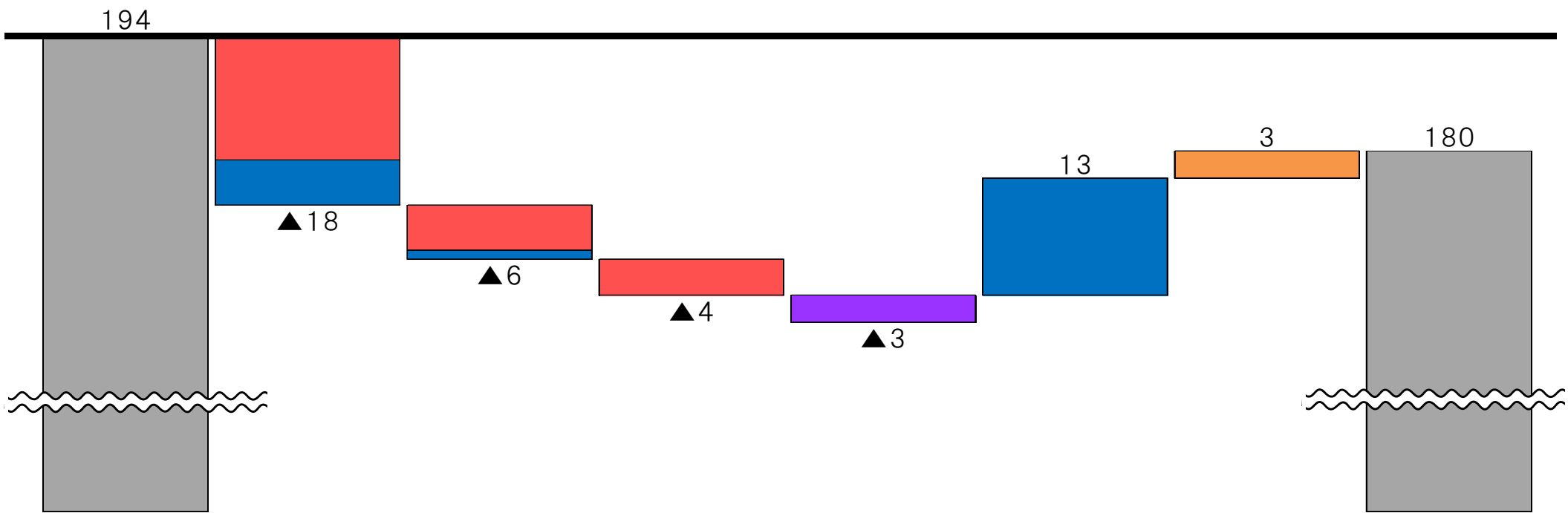
	2017年3月期 計画	2016年3月期 実績	対2016年3月期 実績比増減		2015年3月期 実績	対2015年3月期 実績比増減	
			(億円)	(%)		(億円)	(%)
売上高	6,370	6,371	▲1	100.0%	6,384	▲14	99.8%
水産事業	2,663	2,696	▲33	98.8%	2,848	▲185	93.5%
食品事業	3,031	3,054	▲23	99.2%	2,969	61	102.1%
ファインケミカル事業	281	256	24	109.4%	253	27	111.0%
物流事業	165	151	13	108.6%	142	22	116.1%
その他	230	212	17	108.3%	170	59	134.9%
営業利益	180	194	▲14	92.6%	181	▲1	99.4%
水産事業	53	40	12	131.1%	62	▲9	84.2%
食品事業	91	106	▲15	85.6%	75	15	119.8%
ファインケミカル事業	42	46	▲4	90.7%	45	▲3	92.2%
物流事業	15	18	▲3	80.9%	16	▲1	89.8%
その他	6	6	▲0	96.6%	8	▲2	70.5%
全社経費	▲27	▲23	▲3	115.0%	▲28	1	94.4%
経常利益	200	206	▲6	96.6%	213	▲13	93.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	120	119	0	100.1%	102	17	116.8%
EPS(1株当たり純利益)	43.44円	43.38円	-	-	37.20円	-	-

主な営業利益増減要因

◆営業利益は前年比▲14億円(▲7.4%)減少の計画。北米が水産・食品とも苦戦、南米は依然厳しい状況は続くものの、前年比好転を見込む。全体として魚価や為替の動きから厳しい収支となる見込み。

(単位:億円)

■ 水産 ■ 食品 ■ 物流

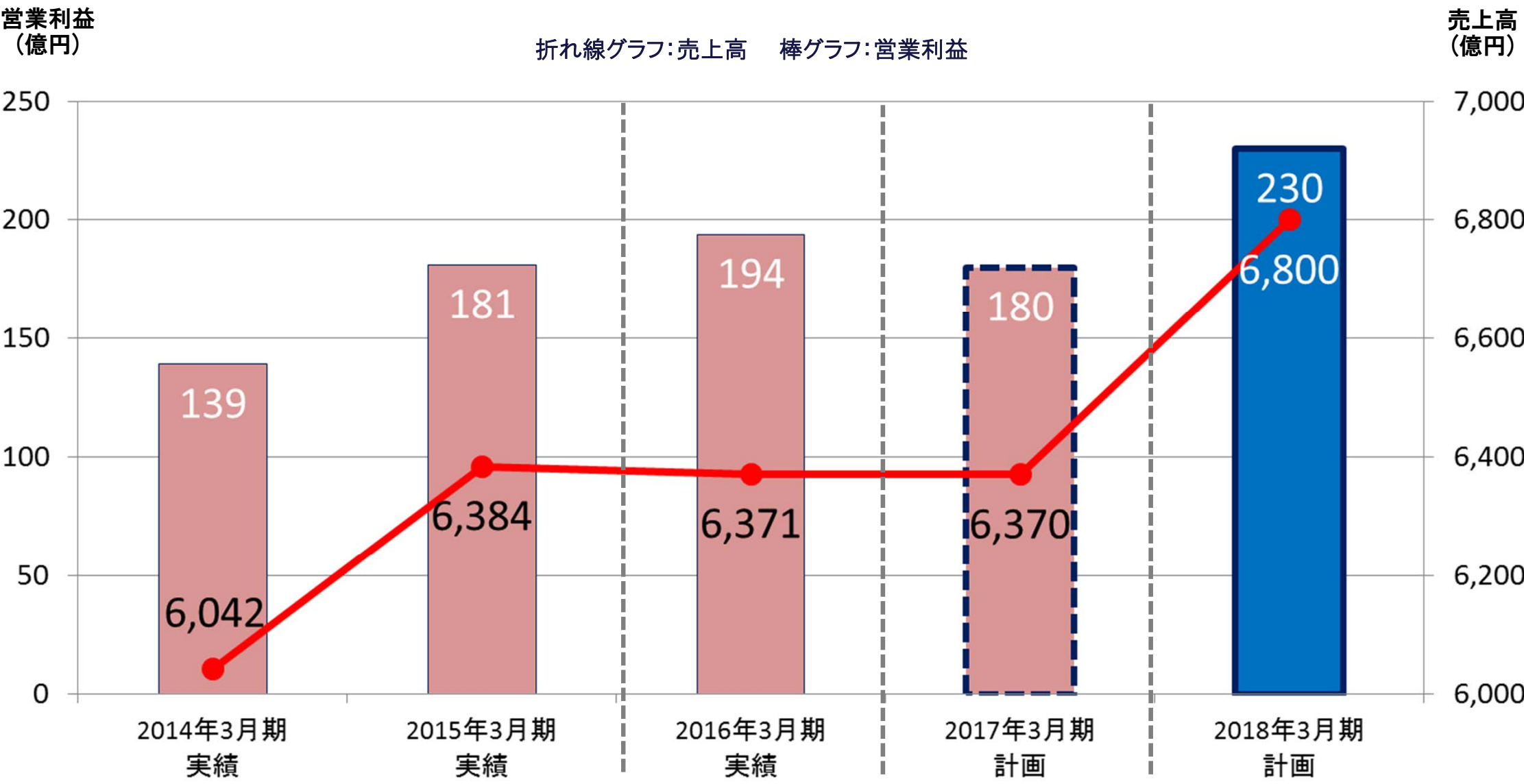


(主な増減要因)

2016年3月期実績	海外			国内	海外		国内	2017年3月期計画
<p><北米> 食品…主力品の不振や価格改定等による販売ダウン 水産…フィレ市況の低迷や助子数量減等</p>	<p><アジア> 食品…原料価格や労務費などの製造原価が上昇</p>	<p><ヨーロッパ> 食品…原料価格高騰、為替レート悪化などを見込む</p>	<p><物流> 舞洲物流センターの減価償却費、開業に係る消耗品費等により、減益</p>	<p><南米> 水産…16年後半からの鮭鱒魚価回復、高付加価値製品注力</p>	<p><ニッスイ個別> 水産…在庫マネジメント強化、惣菜化推進 食品…主要カテゴリ強化等 ファインケミカル…医薬原料苦戦</p>			



◆初年度は順調にスタートしたが、中間年は売上・利益ともやや足踏み



見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2016年5月13日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

